

大東町まちづくり 「鮭のまち」

岩元 浩二

1. はじめに

大東町には、珍しい「鮭神社」がある。鮭を祭っている神社は全国的にも非常に珍しく貴重な神社といえる。この神社をまちのイメージとして、「鮭」にちなんだまちづくりについて考えてみたいと思う。まちづくりは、人々が日常生活の中で、生きている町として我が町を育ててゆくことにあると考えている。なにも特別なことをしなくとも、子供から老人まで町を育てゆきたいと思う気持ちさえあれば、人の集まる町が出来上がってゆくと考えている。

本論では、大東町鮭神社の歴史、鮭の生活、全国的な鮭に係わるまちづくりの事例を紹介し、「大東町－鮭のまち」のまちづくりについて述べるものとする。

2. 鮭神社の歴史

大東町鮭神社の概要について以下に示す。

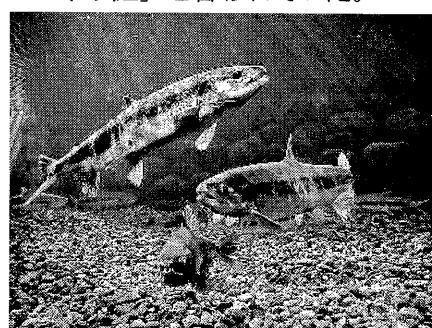
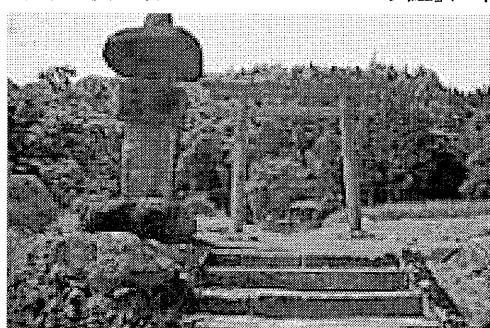
住 所：大東町大字川井 186

主祭神：豊玉姫命

祭 日：例祭：10月30日、祈年祭3月20日、新賞祭12月3日

由 緒：神社の例祭には、鮭魚が神社前の阿用川を上り、例祭直後に下ると言われている。

海神の使と称し、上るのを「上り鮭」、下るのを「下り鮭」と言っていた。

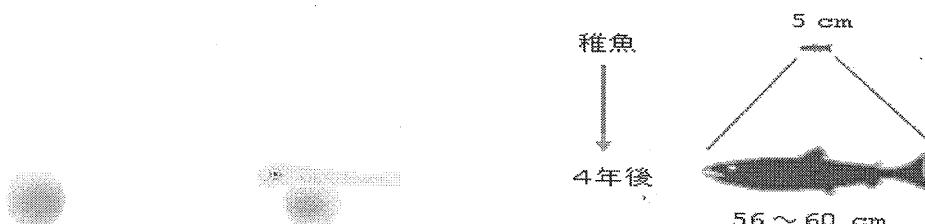


3. 鮭の生活

親の鮭は、秋に日本のきれいな小川で産卵し、ふ化した稚魚は河口に下り北海に向かう。成長した鮭は約4年後に、再び日本の自分が生まれたふるさとの川へ戻ってくる。

(1) 産卵、成長

鮭の多くは秋ごろ日本に帰ってきて、産卵・受精する。そのとき産み落とされた卵は、約2カ月でふ化して稚魚になる。卵の中の栄養分を吸収しながら育った稚魚は、春まだ早い頃、川の流れのあるところに出て虫などを食べながらさらに成長し、やがて川を下って海へ出る。



(2) 北洋からふるさとの川へ

海へ下った稚魚はその後、沿岸に沿って移動しながら北洋へ向う。そしてオキアミやヨコエビなどを食べながら成長し、多くの場合 4歳になったときに、ふたたび日本の沿岸に戻ってくる。ところで、鮭はどうやって自分の生まれた川が分かるのであろうか？

それは視覚ではなく、嗅覚で識別しているのだとされている。川にはその土地固有の有機物・無機物などが溶け込んでいて、そのにおいを憶えていると考えられている。

無事自分のふるさとの川にたどり着いた鮭は、さらに川を遡り、比較的浅瀬の砂利になっている河床の、地下水の湧出するところに産卵する。そして産卵・放精後まもなく、鮭はその一生を終えることになる。まるで、年とて都会からふるさとへ戻ってくる現代の日本人とよく似ているのではないかと感じている。

4. 鮭のまちづくりの紹介

鮭をテーマとして施設整備や祭りを行っている町を紹介する。

- 新潟県村上村：さけ公園、鮭のふ化飼育場、鮭博物館などを整備。
- 福岡県嘉穂町：鮭神社、川づくり事業の推進。
- 北海道標津町：鮭の科学館、市町村交流。

新潟県村上村鮭の町

(1) さけ公園（サーモンパーク）

公園面積、約 7.8 ha の広さを誇る園内には、鮭のミニふ化場を始め、自然河川をほうふつさせる美しい人工河川や池、水車、鮭漁の舟小屋、芝生広場等が設けられている。市民の憩いの場として、家族連れがお弁当をげ、また観光客にも非常に喜ばれている。

(2) 鮭の生態観察室

本館地階には側面をガラス張りにした人工河川があり、秋にはふるさとの川に帰ってきた勇壮なサケの群遊を間近に観ることができる。運がよければ献身的なサケの産卵シーンに遭遇できる。

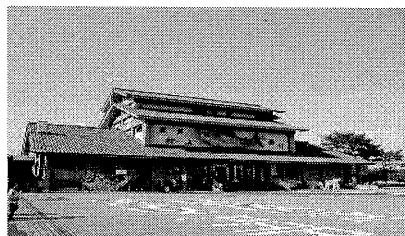
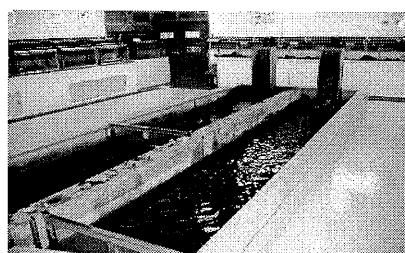
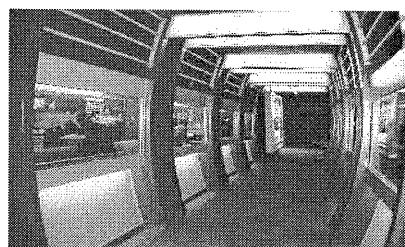
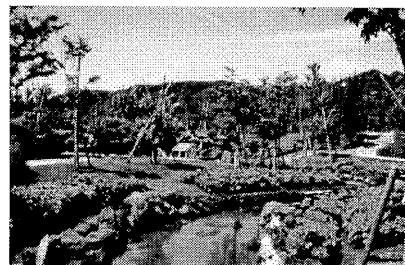
(3) 鮭ミニふ化場

ここでは10月から4月にかけて、サケの卵をふ化し飼育している。発眼卵から新しい生命の誕生、健気な稚魚の姿を直接見ることができる。

また、年間を通じて色々な種類の淡水魚を飼育しており、その生態を観察することができる。

(4) 鮭の博物館

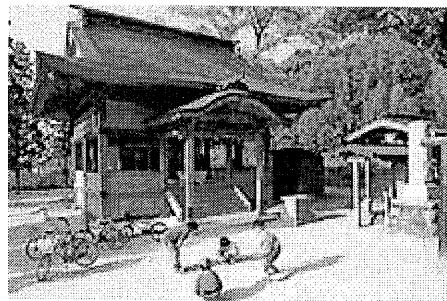
鮭の伝統的な漁法・漁具や淡水魚の生態、鮭料理などを紹介したり、鮭の産卵シーンを自然のままで見ることができる。



福岡県嘉穂町

(1) 鮎神社、鮎祭り

約1200年昔の奈良時代に建立されたという「鮎神社」である。鮎の名を冠にした神社は、全国的にも大東町と嘉穂町だけである。毎年12月13日は、鮎神社の祭典、「献鮎祭」があり、おごそかな神事の後、鮎塚に遠賀川（おんががわ）で獲れた鮎を奉納する。



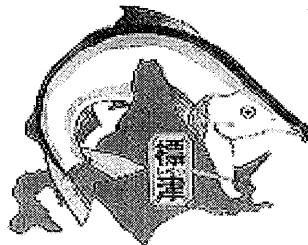
(2) 魚ののぼりやすい川づくり

「魚ののぼりやすい川づくり推進モデル事業（国土交通省）」に着手し、遠賀川の河川施設の改善、魚道の設置、水域環境の創造を行い、河川生態系に配慮し地域住民にも親しめるような川づくりを行っている。また、地元中心で発足した「鮎を呼び戻す会」は、鮎の自然ふ化、自然回帰を目指す取り組みを行い、地域活性化に努めている。

北海道標津町

(1) 鮎の科学館（標津サーモンパーク）

標津町は、サケ、マス、ホタテを中心とした漁業と酪農を中心とした町である。サケの遡上風景でにぎわう標津川や忠類川などの豊富な自然と、標津町のシンボル「サケ」のテーマ科学館「標津サーモンパーク」がある。



(2) 市町村の交流

鮎神社がある九州の嘉穂町と、鮎をテーマに交流事業を行っている。毎年12月に標津町と標津漁協が鮎神社「献鮎祭」に参拝している。

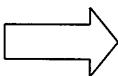
5. 大東町「鮎のまちづくり」

鮎をテーマとしてまちづくりを行っている町を紹介したが、大東町にも貴重な鮎神社をテーマとしたまちづくりが期待できると考える。地域の活性化、地域住民の交流促進に向けて「鮎のまちづくり」の具体的な例をいくつか提案してみたいと考える。

① 鮎神社の歴史的価値の継承

鮎祭り

- ・まち全体で鮎祭りの復活
- ・秋祭り 10月30日
- ・「酒=鮎」
- ・神楽、七夕祭りとの融合

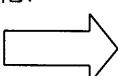


鮎神社の歴史的価値継承
町全体の活性化
地域住民の交流

② 鮎の放流と飼育

鮎の飼育

- ・阿用川への鮎を放流、自然ふ化、
自然遡上の実施
- ・河川環境、施設の改善



鮎の生育作業に係わる
地域住民の交流と活性化

③ 交流空間の整備



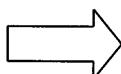
- ・自然となじんだ釣り堀の整備（鮭、マスやヤマメ）

- ・鮭のつかみ取り

- ・鮭の水族館、鮭の科学館

- ・子供から老人までが楽しく

すごせる空間の創造



人が集まる町の創造

また来たい町の創造

④ 鮭にちなんだ歌の創造



- ・鮭にちなんだ歌

- ・おもしろい振り付け

- ・島根3大節の一つに立候補



「歌と振り付け」文化
の創造

⑤ 名物の創造



- ・鮭まんじゅう

- ・鮭茶漬け

- ・いくらどんぶり



大東町の名物の創造
お客様の到来

⑥ 温泉と鮭



- ・露天風呂の温泉

- ・鮭のつかみ取り

- ・鮭のバーベキュー



身近なレジャーによる
観光客の増加

⑦ 鮭のまち全国展開



- ・鮭祭りの交流

- ・鮭神社の交流

- ・鮭文化の交流



市町村交流と町全体の
活性化

6. おわりに

鮭神社をテーマにしたまちづくりは、新潟県村上村で成果を上げている。村上村に比べ、大東町には鮭神社や温泉があり、更なる「まちづくり」が可能であると考える。町の有効な資源を、官民一体となって育ててゆくことが、まちづくりの第一歩であると考える。「町全体の人々の協力」と「町のイメージ造り」が重要なカギを握ると考える。我が町を、魅力的な豊かで人の集まるまちにするためには、町民の参加による身近な町づくりから進める必要がある。「千里の道も一步から」偉大な事業も手近なところから始まると考える。まちの魅力を掘り起こし、日常生活の中で子供、青年、老人が、楽しく誰もが参加できる「町づくり」を考え、10年後、100年後、1000年後にも「生きているまち」が創造出来ればと考る。

以上